

現代合唱曲におけるトーン・クラスター

——Knut Nystedt の合唱曲——

洲 脇 光 一

トーン・クラスター (Tone Cluster) とは同時に響く隣接した音群で最初
は器楽曲で聞かれるようになった。とくに鍵盤楽器が演奏しやすく、こぶし
や手のひら、前腕等で多くの鍵盤を同時に叩くものである。おそらく Hen-
ry Cowell (1897~1965。米国の作曲家) がピアノ曲 “The Tides of Manau-
naum” (マノノーンの潮流。1912年作曲) で最初に用いられたと思われ、その
後バルトーク、シュトックハウゼン、リゲティ等がその裾野を広げ、1950年
代半ばで管弦楽曲でも用いられるようになった。合唱曲ではポーランドの代
表的現代作曲家ペンデレツキ (1933~) が1962年作曲の “Stabat Mater” で
用い成功したと言える。邦人作品では1958年黛敏郎作曲 “涅槃交響曲” で半
音階で音を積み重ねた合唱は真にクラスターと言える。この様にクラスター
音を合唱曲の中で見られるようになったのは1960年前後からである。この合
唱曲で用いたトーン・クラスターの成功した例を、ノールウェイの現代作曲
家 Knut Nystedt (1915~) の合唱作品で見ることが出来る。

K. ニーステッドはオスロ音楽院で作曲とオルガンを学びその後米国で
Aaron Copland に師事している。オスロ・トルソフ教会のオルガニストを
40年間 (1942~1982) またオスロ大学で21年間 (1964~1985) 合唱指揮法の教
授として務め同時にノールウェイ・ソリスト合唱団の常任指揮者として45年
間その地位にあった作曲家であり合唱指揮者でもある。このソリスト合唱団
はその演奏曲目の中心を自作曲の演奏に置き同時にルネッサンスから現代曲
まで幅の広い曲目を演奏して来ており、また演奏活動範囲も広く国内、北欧
諸国に止まらず、ドイツ、フランス、米国にまで、そうして1978年には韓国、

譜例 1

rit.
 strength and song!
rit.
 strength and song!
rit. *f*
 strength and song! There - fore with joy shall ye draw
rit. *f*
 strength and song! There - fore with joy shall ye draw

譜例 2

S *mf*
 right - eous man his thoughts; and let him re - turn un - to the
 A *mf*
 and let him re -
 S *f*
 Lord, and He will have mer - cy up - on him,
 A *f*
 turn un - to the Lord, have mer - cy up -

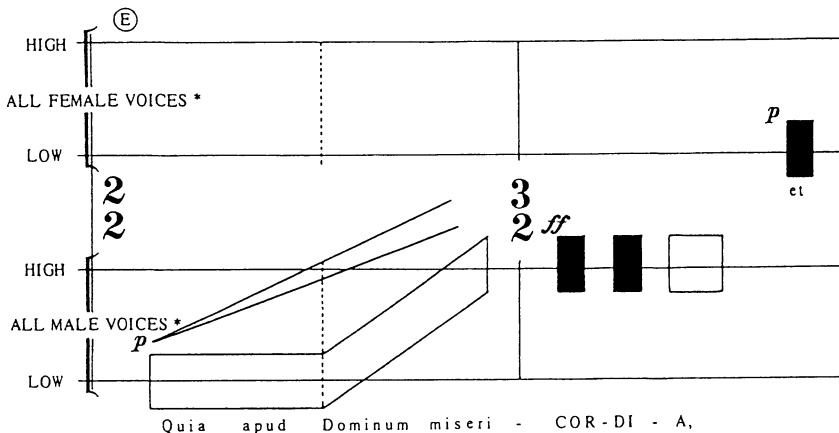
香港、タイ、日本の極東演奏旅行に來ている。この演奏活動が彼の作品を単に5線紙上の音に止めず、この合唱団で實際の音、響きを実証して完成されたものとしている。彼の合唱作品が実用的である一つの証明は、1956年米国で出版した合唱曲“Cry Out and Shout”は約30年間で50万部を売り上げており、これはこの種の合唱曲では異例の数である。この作品ではまだトーン・

クラスターは用いていないが彼の作品の特徴である美しい和声、歯切れの良いリズムそして跳躍のある(D[#]-A, G[#]-C)旋律があり(譜例1)当時のアメリカの合唱作品に新しい光を与えたといえる。リランド・サターン(米国合唱指揮者)は「アメリカの合唱曲が行き詰まっていた時ユニークなニーステッドの作品は全く新鮮で嫌味がなく多くの合唱団、聖歌隊が好んで取り上げた」と述べている。

わが国に於いてニーステッドの合唱曲が初めて演奏されたのは1983年の関西合唱コンクールで甲南女子大学コーラス部が演奏した、同声合唱曲“Seek Ye The Lord”である。譜例2の様にアルトとメゾがE^b, Gの長3度の長い和声を保持する中ソプラノの旋律がF[#]-E-F[#]と短2度で不協和音を鳴らす。フレーズの最後はD, F[#], Aの長3和音で解決する。この様に色彩豊かな和声進行が彼の作品の特徴であり、その音はE^b, E, F[#], Gと短2度で当る音群は近代和声の付加2度, 6度またポリコードとして彼は初期の作品から実に巧みに用いてきており、E^b, E, F[#], Gと短2度である音群はトークラスターの始まりと言える。

それでは彼の合唱作品で用いられているトーン・クラスターをその手法、記譜法で分け分類説明をしてみる。

譜例 3



1) 噪音クラスター (Unpitched clusters)

まず始めは一般的な噪音クラスターと呼ばれるもの。ノールウェイ1964年度最優秀作品賞を受けた“De Profundis”は譜例3の様な彼独自の記譜法で表現している。

高い音程の線、低い音程の線が引かれ、この中の音を全て鳴らす、音程幅

譜例 4

Duration: 8:30 minutes

DE PROFUNDIS

for Four-Part Chorus of Mixed Voices (divisi)
a cappella

Knut Nystedt, Op. 54

d = 60

Soprano

Alto

Tenor *div. a 2 pp*
De pro - fun - - dis cla -

Bass *div. a 3 pp*
De pro - fun - - dis, de pro - fun - -

S. (A)

A.

T.
ma - vi ad te Do - mi - ne, Do - mi - ne, Do - mi - ne, Do - mi - ne

B.
dis, de pro - fun - - dis,

を四角で囲い、リズムは小節線、白、黒の音価で表す方法で視覚的に捉える図形楽譜に近いものである。この音群が効果的に響くのは作品の冒頭が譜例4の様に2度音程でぶつかった旋律線が付加4度の3度和声に支えられて、地の底から叫び声が沸き上がった後この音群へ繋がり、その後は、単旋律聖歌が表れる変化に飛んだ見事な構成によっている。

2) 静止クラスター (Static clusters)

次は譜例5の様な静止クラスターと呼ばれるもの、“Praise to God,” ではリズムは無く音群の音域を黒い帯状で表した楽譜が用いられている。B^bの音で始まった音は次第に音域を広げて行ったり、内面的に音を動かしたり歌詞をある一定の音域の中で自由に表現する方法で朗唱が基本となっている。

3) エコークラスター (Echo clusters)

さてこれからが彼独特のクラスター音と言えるもので、エコークラスターと呼んでみる。これは彼の合唱作品で最も多く用いられている技法であり、残響の多い教会で歌われる単旋律聖歌が何重にも重なり合って聞こえる時の音響を人為的に作り出したものといえる。譜例6の“Seek Ye The Lord”は僅かG, A, H, の隣り合った3音で作られたグレゴリオ聖歌をカノニックに1音遅れで演奏すると見事な音群が生まれ、この支えによってアルトの

譜例5

The image shows a musical score for four voices (Soprano, Alto, Tenor, Bass) with lyrics. The lyrics are: "Let thy praise our tongue employ, let thy praise our tongue employ, let thy praise our tongue employ, let thy praise our tongue employ, let thy praise our tongue employ, let thy praise our tongue employ, let thy praise our tongue employ, let thy praise our tongue employ." The score includes dynamic markings such as *mf*, *cresc.*, and *f*. The notation is a form of graphic notation where notes are represented by horizontal lines and vertical stems, with some notes being solid black shapes. The lyrics are written below the staves.

譜例 6

SEEK YE THE LORD

Treble Voices

KNUT NYSTEDT

English Text by
GUNILLA MARCUS
(Isaiah 55, 6-12)

Sop. I: *pp* 1" Seek ye the Lord while He may be found, 5 times

Sop. II: *pp* Seek ye the Lord while He may found, 5 times

Sop. III: *pp* Seek ye the Lord while He may be found, 5 times

Alto: *mp* Seek ye the Lord while He may be found, Call up-on Him while He

Alto instruction: Altos start when I Sopr. has repeated once.

譜例 7

To Ruth Olson

If You Receive My Words

Proverbs 2: 1-15, 3: 1-4

Knut Nystedt

S: *ff* 6" My

A: *ff* My

T: *p* My ah ah

B: *ff* My ah ah

主旋律が歌われる様になっている。譜例7の “If You Receive My Words” も同様のタイプであるが曲頭のB音がffで歌われ基音としての安定を増している。

4) ポリコードクラスター (Polychord Clusters)

譜例8の IMMORTAL BACH (不滅のバッハ) と題されるこの曲は彼の作品ではなく Johann Sebastian Bach のコラルである。しかし編曲とされ次の様な演奏上の注意と方法が記されている。

1. 記譜通りに一回演奏する。
2. SATB各パートを5つに分割し演奏する。全員で冒頭のKommを4秒間歌い、続けてTodまでの2小節を演奏するが、5つに分けたグル

譜例 8

IMMORTAL BACH

Arr. KNUT NYSTEDT

Musical score for the first system of "IMMORTAL BACH". It consists of two staves: a vocal line (treble clef) and a piano accompaniment line (bass clef). The key signature has one flat (B-flat), and the time signature is 4/4. The lyrics are: "Komm süs - ser Tod. Komm sel' - ge Ruh'."

Musical score for the second system of "IMMORTAL BACH". It consists of two staves: a vocal line (treble clef) and a piano accompaniment line (bass clef). The lyrics are: "Komm füh - re mich in Frie - de".

ープは一拍遅れで演奏しはじめる、最終音 Tod では音を持続させて最終グループが到達するまで待つ。

3. 3～4小節は先ずソプラノが初めの E^b 音を単独で歌い4秒間保持し全体が Komm を演奏する。前2小節と同様の5つのグループは一拍遅れで演奏 Ruh に到達すると最終グループが到達するまで音を保持する。
4. 第2フレーズ5小節からは最終音8小節目の de まで前半同様一拍遅れで演奏、最終音で全員が到達するのを待つ。
5. ダイナミックスは pp でスタート5小節目で ff になり最終音で pp となる様クレッシェンド、ディクレッシェンドを付ける。

それでは以上の方法で演奏すると如何なる音が出るか、冒頭の2小節を見ると第1のグループが最終音 Tod に到達した時に2小節間の全ての和音が同時に鳴ることになり、素晴らしいトーン・クラスターが聞ける。即ち低音から G, D, E^b, G, A^b, B^b, E^b, F, G, A^b, B^b, C, と12の音が2オクターブ間にわたって同時に鳴る。この素晴らしいクラスターのクライマックスは5小節目でバスの G からソプラノの E^b 音まで15の音が同時に鳴る音群で見事な響きを作ることになる。これは、5秒から9秒と残響の多いヨーロッパの教会堂で演奏するコラルが音が重なり合って聞こえる現象から暗示を受けたトーン・クラスターと思われホモフォニックなコラルの一つ一つの和音が重なったポリコードと同じであるため、ポリコード・クラスターと呼んで見た。

以上4種のクラスターを上げたが、これらの作品は次の2点で演奏が困難とされるトーン・クラスターの中では実に演奏し易い作品といえる。1) クラスターの音が良く響く、2) クラスター音に続く音程が取り易い。クラスターの演奏ではしばしば自分の音程を見失い後続音が取れなくなるが、その様なことが無い。即ち、これらのクラスターは単なる騒音でなくその音群の中に和音または旋法の基調を見ることが出来るからである。その代表的なものが単旋律のカノニックな音の重なりであり、またコラルでの和音の重なりでもある。トーン・クラスターは音階の構成音または同調性上の構成和音

を組み合わせた時の響きが中心となっており、調性、音階によって決められた固有の音高を持っており、またそれらの上部倍音がひじょうに複雑に錯綜するため見事な音響効果生まれるのである。そうしてこれは彼が作曲家であると同時に演奏者であり、実際の音現象を作曲者自身で十分に体得する中これを再現したものであるからと言える。リランド・サターンは、ニーステッド作品を評して「そこには常に新しい合唱音楽の音響と技法が見られ、テキストを十分に生かした作品である」と述べている。この様に彼の合唱作品は人声による新しい可能性を求めておりトーン・クラスターはその一例である。「旋法、調性、無調、12音等あらゆる音楽作品における作曲技法は同じであり時代を越えても不動である、しかし私は新しい音即ち音色、音響を求めている」とK. ペンデレツキは述べている。合唱におけるトーン・クラスターはまだ始まったばかりと言える。邦人合唱作品におけるトーン・クラスターにも期待したいものである。

参考文献

Leland B. Sateren, *Cry Out And Shout!*, A brief essay on the influence on the choral music of Knrt Nystedt in the United States.

Finn Benestad, *Lucis creator optime*, Opus 58, A note on a major work by Knut Nystedt.

Choral Works

Cry Out and Shout!

Seek Ye The Lord

De Profundis

Praise to God

If You Receive My Words

Immortal Bach